

2 地方創生の推進

(3) 地方の産業競争力の強化 ④ 農業の競争力強化

国への提案事項

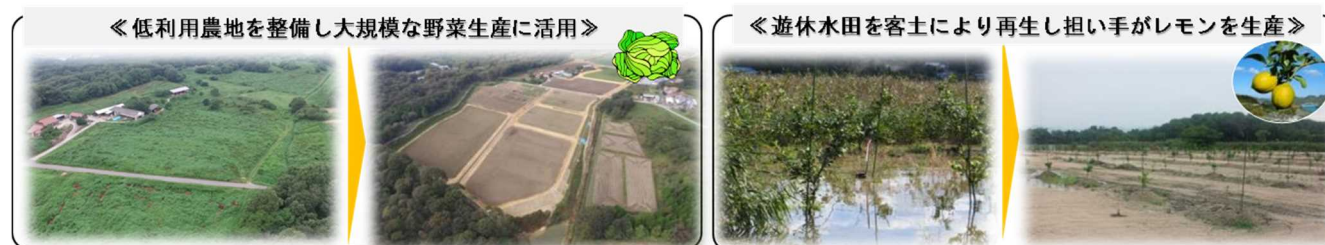
意欲のある担い手による規模拡大や新たな担い手の農業参入が進み、若い世代にとって魅力のある農業が実現に向けた施策を講じること。

1 経営基盤強化に向けた農業農村整備関係予算の確保

- 経営力のある担い手を育成するため、園芸作物の生産拡大や機械導入による柑橘栽培、さらにはスマート農業技術の活用が可能となる、まとまりのある優良農地の集積が促進されるよう、農業農村整備関係予算(公共・非公共)を確保すること。
- また、担い手の経営発展の礎となる農業農村整備事業が計画的かつ切れ目なく進められるよう予算の確保に努めること。

2 農地中間管理事業に係る農業生産性向上の評価

- 本事業は、農地の集積・集約化のみではなく、水田の畑地化等による高収益品目への転換に大きく貢献しているため、事業評価に当たっては、農業生産性の向上を加味した新たな評価指標を設定し、事業効果を適正に評価することにより、必要な予算を継続的に確保すること。



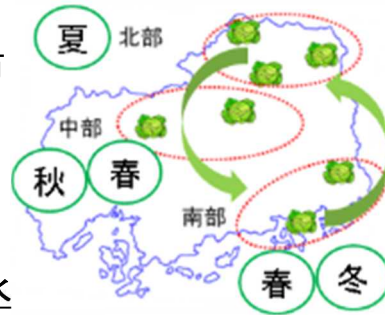
【提案先省庁：財務省，農林水産省】

現状/広島県の取組

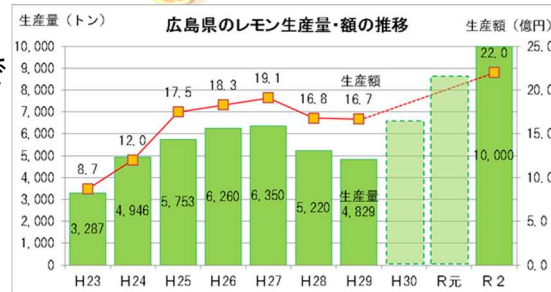
- 重点品目の生産拡大により収益性の高い経営体を育成し、経営力の高い担い手が生産の大部分を占める力強い生産構造への転換を目指している。

【取組の例】

- キャベツは、安定した広島市等の消費地を抱え、また、標高差を生かしたリレー出荷が可能である強みを生かし、県内消費の過半を生産目標として大規模農業団地の整備と水田の畑地化に取り組んでいる。



- レモンは日本一の生産量で、皮まで食べられる安心感と、菓子類や飲料など幅広い需要のため、食品メーカーの引き合いも多く、機械導入などにより効率的な生産が可能となる樹園地の整備を進め、生産拡大を図っている。



2 地方創生の推進

(3) 地方の産業競争力の強化

④ 農業の競争力強化

課題

- 大規模農業団地の整備や水田の畑地化を推進することにより販売額の拡大が図られた。

	農業産出額	左記のうち野菜・果樹
H25	1,125億円	342億円
H30	1,187億円	399億円
増減	+62億円	+57億円

- その一方で、販売額目標の達成に向けては、
 - ・排水対策が不十分であるため単収が低位にある
 - ・作業効率が悪い農地が多く規模拡大しにくい
 などの課題があることから、生産性及び収益性の向上のための基盤整備が必要である。



◀水田の排水対策による生産性の向上（暗渠排水，明渠）▶



◀樹園地内の園内道を密に配置することによる生産性の向上▶

2 地方創生の推進

(3) 地方の産業競争力の強化

④ 農業の競争力強化

農地の生産性向上の評価の考え方

○ 令和元年度の農地中間管理事業の実績

目標 1,400ha

実績 405.5ha(内野菜45.4ha, 果樹6.2ha)

達成率 29%

○ 農業生産性の向上を加味した実績評価

水田に対し, 野菜6.1倍, 果樹6.4, 花き9.1倍の生産性

実績 野菜45.4ha ⇒ 水田276.9haに相当

果樹6.2ha ⇒ 水田39.7haに相当

合計 670.5ha ⇒ 達成率が47.9%に向上

○ 園芸品目の借受希望(R2年3月末現在)

野菜161.2ha ⇒ 水田983.3haに相当

果樹 23.8ha ⇒ 水田152.3haに相当

花き 3.5ha ⇒ 水田31.9haに相当

計 188.5ha ⇒ 水田1,168haに相当

集積目標1,400haに対し,

13% ⇒ 83%に向上



《高齢化が進む中山間地域の水田地帯》



《収益性の高い園芸品目で担い手を確保》